

# The Oshibana

花き装飾コース

## 1. はじめに

卒業後、インターンシップを行ったオシバナ トゥー プーコニュで仕事をする。押し花の経験がほとんどないため、押す工程から作品制作までの一連の作業を卒業制作で取り組むこととした。各花の特徴に合わせた押し方を体験するため、20種類 24品種の花や葉を押し花にして表にまとめた。作品制作の技術向上のため、技能五輪全国大会で制作したブライダルブーケと押し花のオリジナル作品を制作した。

## 2. 制作

### (1) 制作方法

花名	乾燥方法	乾燥日数	彩色
SPバラ	シリカゲル	2日	無
SPカーネーション	シリカゲル	3日	有
トルコキキョウ	電子レンジ+シリカゲル	3日	無
デンファレ	シリカゲル	1週間	有
ヒペリカム	シリカゲル	3日	無

### (2) 形成工程

【SPバラ(3cm)】 「実際の咲き方のように外側に白い線の入った花弁を使用すると再現度が高くなる」とプーコニュの方にアドバイスをもらった。花弁の先端の向きが外向きになってしまい、奥行き感を出すことができなかった。「花弁の間隔を狭くし、先端を内向きにすることで花全体に丸みが出てさらに再現度の高い作品が作れる」と指摘された。



【SPカーネーション(4cm)】 円表に沿って制作したため花の形が丸くなってしまった。「花の中央部分は不均等にデザインできているが花の外側の花弁が同じ幅になっている」と指摘された。「まん丸にならないように花弁の間隔を不均等にする事で立体感や奥行き感を出すことができる」と先生にアドバイスをもらい再度制作をした。



【トルコキキョウ(6cm)】 「奥側の花弁を小さく、手前側の花弁を大きくし、中心部分に行くにつれて花を小さくすることで立体感が出る」とプーコニュの方にアドバイスをもらった。花弁の間隔を奥側は狭く、手前側は広くなるように制作した。SPカーネーションと似たデザインだったため、指摘を生かして花弁の間隔と立体感を意識しながら制作できた。



【デンファレ(5cm)】 1輪ずつ異なる形状にするために組み立て方や花卉の張り付け方を変えて形成した。1輪ごとに花卉の大きさを加工し、花卉の角度や形を変えることで再現度が高くなった。唇弁は押した状態のまま貼ると不自然だったため、唇弁を小さく切って加工してから貼り付けることで自然になった。



### (3)レイアウト工程

【ボール部分】 トルコキキョウ(紫)の乾燥に時間が掛かり色がくすんでしまったため、電子レンジ+シリカゲルで押しなおした。背面のSPカーネーション(ピンク)を1回目よりも見えるように配置しなおしたことで奥行き感が出た。



制作1回目



制作2回目

【蝶の翅部分】 大会同様にトルコキキョウの花弁にアクアグルーを塗って制作した。押し花にした花卉でも生花と同様に艶を出すことができた。翅のグラデーションが表現できていなかったため、内側から外側に向けて濃くなるよう彩色しなおした。蝶に立体感がなかったため、翅の大きさを左を小さく、右を大きくすることで奥行き感を出し、蝶の立体感を表現することができた。



制作1回目



制作2回目

## 3. まとめ

押し花制作を押し工程から挑戦したことで各花に合った乾燥方法や形成方法を学ぶことができた。デンファレや蝶の形成工程には特にこだわり、平面の作品でも奥と手前で大きさを変えたり角度を変えたりすることで大会の作品を立体的に再現することができた。制作を繰り返したことで、花の立体感や奥行き感を表現する方法が身に付き作品制作の技術が向上したと実感することができた。

自分でデザインしたブーケを押し花として形に残すことができ、作品を作る楽しさや達成感を感じた。また、ウェディングブーケが押し花として形に残り続けるお客様目線の感動や嬉しさも知れた様な気がした。この経験を就職先でも活かし、即戦力として活躍できるように努力したい。



完成作品